



おしゃべりかわらばん



「よーし、助けるぞ！」
5月5日、消防と子どもの集いで。



消防と子どもの集いに来ていた高嶋祐人くん(5歳)

消防服、かっこいいでしょ！
消防服を着て、放水の的あてゲームをしました。消防服が、ちょっと重くて動きにくかったけど、消防の人に手伝ってもらって上手にできたよ！ たくさん集まった消防車の中でも、やっぱり放水車が一番好き。



をゆつくりとカモシカが通っていました。一瞬目を疑いましたが、間違いなくカモシカでした。住宅地に現れたカモシカはどこから来たものやら。雄物川の河川敷も今は整地されて、動物の住む場所ではなくなっているのに、とても不思議です(相庭けい 74歳・牛島)

六月になると、また松くい虫の被害が出てきます。現在、わたしは個人的に薬剤注入で対応しています。全市で取り組めば、より効果が出ると思われます(熊合金次郎 69歳・新屋)

ヤートセはみんなが主役！
今年のヤートセ祭りは、6月28日・29日、旧産業会館跡地と大町二丁目通りで行います。自分たちが心から楽しめるのがヤートセのいいところ。一緒に踊って盛り上げましょう。参加者みんなが主役の祭り、ぜひ見に来てください！



ヤートセ秋田祭実行委員長を務める小原秀美さん



全国訪問おはなし隊のイベントに参加した加藤恵美子さん、美乃ちゃん(土崎)

絵本って楽しいね！
おはなし隊の紙芝居がとても楽しくて、質問に大きな声で答えたり、手を挙げたり、夢中になりました。キャラバンカーに積んでいた絵本も、2人で楽しく読みました。絵本がとても好きみたい。うちでも読んであげるね。

サーブが入るとうれしい！
家族みんながバレーボールをやっているの、ぼくも始めたくて参加しました。やってみてすごく楽しいです。特にサーブをするのが大好き。上手に入るとうれしいです。スパイクもうまくなりたいなあ。次の教室が楽しみ！



小学生バレーボール教室に参加した鈴木拓馬くん(日新小4年)

手話で表現するって大変！
小さいときから手話に興味があって、テレビの手話教室を見ていました。自分が伝えたいことを、すぐに手話で表現するって難しいですね。高校生の私は、大人のみなさんと一緒に和気あいあいでがんばってます！



手話奉仕員養成講座に参加した佐々木朝美さん(太平)

係からひとこと
ぼかぼか陽気が続き、樹々の緑がまぶしく、外出も心地よい季節になりました。取材で訪れた公園で、緑に囲まれていただけで、日々の忙しさを忘れ、気持ちがりフレッシュしてくるような感じ。これがまさに「いやされる」感覚なのでしょう。か。

いやされると言えば、今回の表紙を飾る新しい「あきた観光レディー」のみなさん。五月晴れの空の下、笑顔がとてさわやかです。ふき刈りや竿燈まつりのPRなどで、これからみなさんにお目にかかることでしょう。フレッシュな笑顔に、かなりいやされますよ。カメラのファインダー越しに見た私が保証します！ (石塚)

広報クイズ



全国訪問おはなし隊のイベントで

4月25日号の当選者

前回のクイズの答えは、問1が「合併推進」局、問2が「支援費」制度でした。

全問正解95通(応募総数98通)の中から、岩井一昭さん(將軍野東一丁目)、佐々木香さん(新屋豊町)、佐藤知加子さん(將軍野南一丁目)、鈴木幸子さん(新屋田尻西町)、玉尾勇さん(千秋久保田町)、土谷猛さん(飯島田尻堰越)、増田優子さん(土崎港北三丁目)、松下なつえさん(八橋イサノ二丁目)、三浦義直さん(保戸野通町)、山本郁子さん(牛島東一丁目)の10人のかたに図書券をお送りします。

5月の広報クイズは最終面です。よろしく!!

広報クイズの当選者は、毎回、市政記者室の記者のかたに厳正に抽選してもらっています(広報課)

井戸端 市民通信

月刊

読者のみなさんのページです。最終面に掲載している広報クイズの答えと一緒に、気ままなひとこと、ちょっと言いたいひとことを、お待ちしております。

読者の伝言板

敬称略

● わたしの生まれた頃は、秋田駅前には人力車が並び、客待ちしていました。広小路は舗装されていませんでした。夏の乾燥期には水まき自動車が走り、道路に水をまいていました。路面電車が走り、マイカーはありません。バスとタクシーはありました。その後、駅前から連隊はなくなり、中央通りができ、民衆駅となり、ウィロード、ぼぼろーども通りました。やがて、秋田中央道路も完成し、いろいろ変化することでしょう(玉尾勇 77歳・千秋)

● 四月のお花見は連日の雨続きでした。でも、しっかりと弁当、ビール、ワインを持って、かぜをひかぬよう、冬物のコート、ホカロンで体を冷やさないようにして……。屋台は閉めてるところが多かったです。千秋公園最高！(田中ひとみ 42歳・八橋)

● 裏表紙の竿燈の写真をみてびっくり。明治時代からあったんですね。すごい歴史を感じました(菊地光子 52歳・外旭川)

● 四月最初の選挙は投票所までの往復と投票時間を合わせて一時間二十分はかかり、投票所には休むいすも車いすもなく、途中疲れて休みたくなつたのですが、二回目は介護タクシーを利用しました。家を出て帰るまで二十分でした。文鎮も借りました。ありがとうございました(越後谷金雄 71歳・土崎)

● 「情報チャンネルa」のタイトルの下に、いつも「ヒサト」さんの一言が書いてあります。が、けっこう納得させられる内容が多く、必ずチェックしています。「ヒサト」さんって誰なんでしょう。気になる(匿名希望 26歳・仁井田)

● 今朝、玄関の戸を五時半頃に開けたとき、家の前の道路

地域のお話 おしえて!!

このコーナーでは、町内や地域のいろいろな話題を紹介していきます。耳よりなニュースがありましたら、広報課までお知らせください。
tel(866)2034 FAX(866)2287

痴呆のかたの共同生活の場“グループホーム” 自分のペースで営む生活を支援

軽度の痴呆状態にある要介護者を対象に、少人数での共同生活の場を提供する痴呆性高齢者グループホーム(痴呆対応型共同生活介護)。現在市内に8か所あり、家庭的な雰囲気の中、入浴や食事など日常生活のお世話を行っています。昨年11月に上北手にオープンしたグループホーム「ひふみ」の入居者は9人。1室8畳の個室があり、食事の時間や外出などは自由です。

ホーム長の加藤蓉子さんは、「痴呆がこれ以上進行しないようにサポートするのが、私たち職員の役割です。共同生活では、お互いを認め合うことがとても大切。入居者が自宅にいるような感覚で生活するぐらいの信頼関係を築くのがベストです」と話してくれました。自主性を尊重しながら、個々の生活のリズムをくずすことなく生活できる理想的なサービスのかた



ちといえるでしょう。

みんなで食べる昼食も、また楽しみ